

川で遊ぼう

小学生による水質調査



待ってましたと言わんばかりに川に入っていく児童たち。水しぶきなんてへっちゃら! 楽しそうに網を持って魚を探す。



(左)パケットで色を比較して水質を確認。「何色になったかな?」真剣なまなざし。(右)川から拾ってきた石にひっついてる水生生物をピンセットでつかまよう。



自分たちの住む町を流れる川。その身近な川が今、どんな状態で、どんな生き物がいるのか考えたことがありますか。

9月28日に、豊岡市但東町佐田の出石川で小学生を対象とした、子供の野生復帰大作戦「川で遊ぼう、君も水生生物博士になれるかな?」と題して小学生による水質調査が行われました。

この取り組みは国土交通省豊岡河川国道事務所主催で、川の水質調査、生き物調査をし、「水をきれいにすることの大切さ」を学び、川に親しんでもらうということを目的としたもの。昨年からの全国の109水系で実施されています。調査の内容としては、水温、透明度、水の臭いや、パケットによる簡易水質調査を行い、その後、川に生息する水生生物の調査を行います。

この日は地元の高橋小学校の3、4年生約15名が参加しました。水質

調査で使うパケットとは、小さなチューブの中に試薬が入っており、その中に水を入れて、変化した水の色によって水質を測定します。児童たちは興味深そうにパックを振りながら色を確かめていました。

そして、いよいよ水生生物調査。ニンギョウトビケラ、シマトビケラ、カワゲラなどの生物を見つけてくれることができました。捕獲された生物から、この川はきれいな水だということが伺えます。

また県のレッドデータブックのBランクに指定されている、カジカも見つけることができました。

児童達は「水質調査のパケットがおもしろかった」「いろんな生き物がいて捕まえるのが楽しかった。またやってみよう」とワクワクした笑顔で

話していました。

「今日は川に親しむきっかけをつくってもらえたと思う。一度やってみようかなと思うようになる。そこから川をきれいにしようという意識が芽生え、大きく言えば地球環境のことまでを考えるようになってくれればとても素敵なことですね。」と国土交通省豊岡河川国道事務所副所長の寺井喜之さんは言います。

「あの川にはトビケラがいるんだ」「この川の水はきれいなんだ」それだけの意識だけでも大きな一歩です。川はたくさん人の命を育んでいます。自らの手で調べたことよって、身近な川に興味を持ち始める子供たち。ひとりひとりの小さな意識の変化は、きつと大きな力に変わることでしょう。

協力 国土交通省豊岡河川国道事務所



竹野スノーケルビジターセンターの本庄先生に話を聞く児童。

豊かな未来へ
地域のために、あなたと共に

但馬信用金庫

本店 / 豊岡市中央町17-8 TEL0796(23)1200

<http://www.tanshin.co.jp/>

特別天然記念物 コウノトリ



巣立ちの瞬間

画像提供 豊岡市

八鹿駅の跨線橋 (養父市八鹿町八鹿)



近代化遺産

を
往
く

モダンなデザインが
明治近代化の波を象徴する
東京生まれの跨線橋



ハイカラな八角形の星形窓は八鹿駅のシンボル

の八鹿駅の線路をまたぐ跨線橋が近年、但馬の近代化遺産として注目されています。

跨線橋を支える柱をよく見ると、新しく塗られたペンキの下に「明四十・鐵道新橋」という文字が刻まれているのが分かります。新橋という

入り口にある八角形の星形窓が特徴的な八鹿駅は、明治41年に開設され、昭和9年に改築されました。こ

鉄橋を支える橋脚は、当時の風潮を物語っています。鋳物製で、四角形の柱の上に先が細くなる円柱をのせ、さらに四角形の受部をのせるといったデザイン。急速に西洋化した明治時代の象徴的な建造物です。

のはJR(旧国鉄)の前身である帝国鉄道庁の新橋工場のこと。この跨線橋は、はるばる東京からやってきたものです。

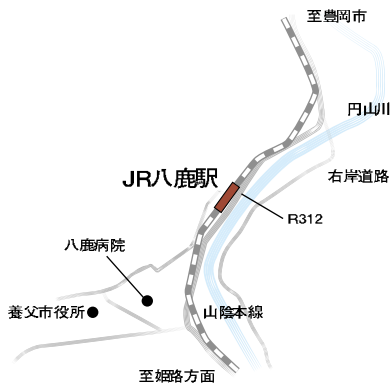
日露戦争後、国内では全国的な鉄道網を国営化しようという声が高まりました。明治39年に鉄道国有法が制定されると、各地で私鉄が買上げられ、さらに新しい国営鉄道の路線が開発されていきます。そんな中、日本海地域の交通網の整備が急がれ、京都・福知山駅から島根・出雲子市間を結ぶ山陰本線が計画されました。

実は、八鹿駅の跨線橋はもともと、この山陰本線の起点となる福知山駅に建設されたもの。八鹿駅には、戦時の鉄材供出で跨線橋がなかったため、昭和29年、養父郡14町村長が国鉄に陳情し、福知山駅に新しい跨線橋が完成するのを待って譲り受けたのでした。

このように明治時代の鋳物を使った跨線橋は、但馬では八鹿駅と竹野駅にしか残っていません。また、八鹿駅の跨線橋は、現役で使われているものとしては、関西地区で最も古い歴史を持っています。

構造やつくりなど、じっくり観察してみると、但馬に訪れた文明開化の面影を感じられるでしょう。

協力 国土交通省豊岡河川国道事務所
参考文献：歴史公演 八鹿を探る



DATA

- 【八鹿駅】 ■開設…1908.7 ■改築…1934.3
- 【跨線橋】 ■製造年…1907 ■八鹿駅設置…1955.1 ■プレス構造



西洋建築を模したデザインが印象的な跨線橋を支える柱。「明四十・鐵道新橋」の銘文が浮かび上がっている。

野生のコウノトリ ハチゴロウがやって来た 写真集



2002年 一羽のコウノトリが、豊岡盆地にやって来た。8月5日に確認されたことから「ハチゴロウ」と呼ばれるようになった。

協力 ネイチャー・プロダクション 三谷 英生
兵庫県立コウノトリの郷公園 豊岡市
撮影 百合 祐市
文章 河邊 雛



里山とコウノトリの暮らしが絵本になった
『このとりのカータ』も好評発売中!!



■詳しいお問い合わせは

岩見印刷株式会社
〒669-5321 兵庫県豊岡市日高町土居67-1
TEL.0796-42-1200 FAX.0796-42-1236
URL <http://www.iwami-hidaka.co.jp>

販売開始!!
定価 2,500円 (税込)